

観光研究

ここでは、わが国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

2022年8月現在、日本学術会議のWEBサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会は、合計で12団体である(表 付記-1)。

この他、「日本学術会議協力学術研究団体」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会(2002年設立)、日本フードツーリズム学会(2009年)、国際観光医療学会(2010年)、ロングステイ観光学会(2016年)などがある。

①全国大会

ほとんどの学会の全国大会が、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてオンラインかハイブリッド形式(対面&オンライン形式)での開催となった。

日本観光研究学会では、査読付き論文を投稿する機会を新たに設けて活発な学術的交流を増やすため、2021年度の全国大会の研究発表より「査読付き論文部門」が設定された。

日本レジャー・レクリエーション学会では「コロナ禍で求められる子どものあそび」、余暇ツーリズム学会では「COVID-19後の余暇ツーリズム」、日本観光ホスピタリティ教育学会では「With/After コロナ時代における観光ホスピタリティ教育のあり方」など、全国大会のテーマにコロナを取り上げる学会もあった。

②学会誌(機関誌)

各学会が発行する学会誌(機関誌)は合計14誌(日本語13、英語1)。2021年度に発行された機関誌・学会誌で設定されていた特集テーマには、「コロナ禍で考える未来志向の観光」(日本観光研究学会)、「コロナ後の観光情報学」(観光情報学会)、「リベラルアーツとしての観光-ツーリストのリテラシーとは何か」(観光学術学会)、「COVID-19パンデミック以後の観光研究をもとめて」(観光学術学会)などがあった。

(2) 大学・大学院

2021年度、「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は44、大学院は11で、2020年度から1大学(専門職大学)増えている(表 付記-2)。専門職大学とは2019年度より創設されたもので、

「特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な知識・理論、そして実践的なスキルの両方を身に付けることができる大学(文部科学省HP)」といった特徴がある。

この専門職大学として新たに開学したのは、兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学(兵庫県豊岡市)で、芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科を備える。設立の目的には、「芸術文化及び観光の双方の視点を生かし、地域に新たな活力を創出する専門職業人を養成するとともに、地域に根差した教育研究活動の推進と地域及び国際社会への貢献を目指す」とある。

表 付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2021年度	44	17	44	11
2020年度	43	16	43	11
2019年度	43	16	43	11

資料:文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学サイトより(公財)日本交通公社作成
(注) 大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2021年度の科学研究費助成事業(以下、科研費)「観光学関連」(小区分80020)における新規採択件数は82件で、研究種目の内訳は、基盤研究(B)10件、基盤研究(C)53件、若手研究17件、特別研究員奨励費2件であった(表 付記-3)。

配分される科研費の合計は3億8,585万円、その内訳は、100万円未満が2件、500万円未満が70件、1千万円未満が2件、5千万円未満が8件となっている。

研究のキーワードは、「観光」が14件、このほか、「COVID(Covid)-19」が5件、「地域活性化」、「関係人口」が各4件、「ツーリズム」、「持続可能性」が各3件であった。以下、2件で、「Japan」、「インバウンド」、「エコツーリズム」、「コロナ禍」、「ポストコロナ」、「マーケティング」、「ユニバーサルツーリズム」、「レジリエンス」、「価値共創」、「地域」、「持続可能な観光」、「景観」、「観光危機管理」と続く。

新規採択件数を研究機関別にみると、6件が北海道大学(総配分額14,440千円)、5件が和歌山大学(同16,510千円)、4件が立命館アジア太平洋大学(同25,610千円)、3件が東海大学(同9,230千円)、2件が京都大学(同8,580千円)、高崎経済大学(同18,460千円)、筑波大学(同21,320千円)、東洋大学(同7,280千円)、立正大学(同6,890千円)となっている(表 付記-4)。

(吉澤清良)

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2021年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST) ○正会員 201名 ○準会員(大学院生・学部生) 30名 ○賛助会員 1名 (2022年8月現在)	【会長】 神頭広好(愛知大学) 【本部/事務局】 青山学院大学 社会情報学部 長橋透研究室 【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中国支部、九州・沖縄支部	○全国大会の開催(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等) ・2021年度(第114回)大会【オンライン】 ○支部会(研究発表会、支部総会)の開催 ・関東支部の開催【オンライン】 ・中部支部会の開催【オンライン】 ・九州・沖縄支部会の開催【オンライン】 ○第4回学生観光プレゼン大会 ・関東支部主催、実践女子大学プロジェクト研究所と共催【オンライン】 ○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) ○学会賞の授与	【学会誌】 『日本観光学会誌』(1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年) ・2021年度:第62号 論文2本、研究ノート2本、調査資料1本、書評1本 ※2021年度途中からJ-Stageでの公開開始。 【大会論文集】 『研究発表要旨集』(年1回) ※学会ホームページからダウンロードする形に変更(期間限定)。
2	日本レジャー・レクリエーション学会 Japan society of Leisure and Recreation Studies(JSLRS) ○正会員 267名 ○購読会員 16団体 (2022年8月現在)	【会長】 前橋明(早稲田大学) 【本部/事務局】 早稲田大学人間科学学術院 前橋明研究室 【支部】 なし	○学会大会(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、総会等) ・2021年度(第51回)大会【オンライン】 ・大会テーマ:コロナ禍で求められる子どものあそび ○研究会・講演会等の開催 ○機関誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』) ○学会ニュースの発行(年2～3回) ○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～) ○研究の助成(研究助成金制度、2011年～) ○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)	【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』(1992年～、年3回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) ・2021年度:第94号 原著5本、総説1本 第95号 第51回大会発表論文集 第96号 原著3本、第50回記念大会 地域研究1本、ランチョン ミーティング報告1本 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
3	余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies ○正会員 149名 ○準会員 5名 ○名誉会員 3名 (2022年8月現在)	【会長】 長谷川惠一 (早稲田大学商学学術院) 【本部事務局】 早稲田大学商学学術院 長谷川惠一研究室 【支部】 関東支部、九州支部	○学会大会の開催(年1回、自由論題報告、会員総会、統一論題報告・討論等) ・2021年度大会【ハイブリッド形式(対面&オンライン形式)】 ・大会テーマ:COVID-19後の余暇ツーリズム ○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等) ○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、飲料サービス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、プライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学生教育研究部会) ○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』) ○図書の編集(『おもてなし』を考えるー余暇学と観光学による多面的検討) ○受託研究 ○会員の研究活動支援 ○学会賞の授与(2016年～)	【学会誌(機関誌)】 『余暇ツーリズム学会誌』 (前身『余暇学研究』1998～2013年、『ツーリズム学会誌』2001～2012年) (2014年3月～、年1回) ・2021年度:第9号 論文6本、研究ノート3本、基調講演1本、統一論題報告(COVID-19後の余暇ツーリズム)3本 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
4	日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research(JITR) ※2022年度より一般社団法人日本観光研究学会へ移行。 ○正会員 1,085名 ○準会員 8名 ○名誉会員 9名 ○賛助会員 3団体 ○特別会員 8団体 (2022年7月5日承認)	【会長】 橋本俊哉(立教大学) 【本部/事務局】 東京都豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106 【支部】 関西支部(2003年7月設立) 九州・韓国南部支部 (2007年4月設立) 東北支部(2015年3月設立)	○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) ・2021年度(第36回)大会【オンライン】 ・大会ポスターテーマ:「地域個性の発見と演出」の仕組みづくりに向けて ○総会の開催(年1回、講演、学会賞表彰、シンポジウム) ○研究分科会の設置、助成 ○研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催 ○支部の活動 ○機関誌の発行(『観光研究』) ○観光学全集の発行 ○会務報告の発行(『会務報告』、年2回) ○メールニュースの配信 ○特別研究の助成 ○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～) ○優秀論文賞の授与 ○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定) ○観光研究に関する外国諸団体との交流等	【学会誌】 『観光研究』(1987年～、年2回) ・2021年度:Vol.33 No.1 論文9本、研究ノート2本、調査報告1本、書評1本 Vol.33 No.2 論文4本、研究ノート1本、特別寄稿1本、特集(コロナ禍で考える未来志向の観光)4本 Vol.33 特集号 第36回全国大会 学術論文(査読付き部門)20本 【大会論文集】 『全国大会学術論文集』(1986年～、年1回)
5	日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism(JAFIT) ○正会員 388名 ○学生会員(大学院生・大学・短期大学・専門学校生) 42名 ○賛助会員 2名 ○特別会員 2団体 (2022年8月現在)	【会長】 崎本武志(江戸川大学) 【本部/事務局】 東京都千代田区二番町1-2 番町ハイム701 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表等) ・2021年度(第25回)大会【オンライン】 ・ハネルディスカッションテーマ:日本国際観光学会らしい観光学ー未来の観光研究ー ○例会の開催(研究発表、講演、年5回) ○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』) ○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(2003年～) ○自由論集の発行(年1回) ○テーマ別研究部会による活動(①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨デステネーション&ブライズブランディング、⑩ワーケーション、⑪観光マネジメント) ○国内外でのシンポジウム開催 ○国際観光研修旅行の実施 ○教科書・学術書の出版 ○国際観光に関する学術調査及び研究 ○内外の企業、団体、個人からの委託研究 ○関連学会、協会との連絡及び交流	【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』(1993年～、年1回) ・2021年度:第29号 論文5本、研究ノート6本 『日本国際観光学会自由論集』(2017年～、年1回) ・2021年度:『自由論集Vol.5』(14本) 【大会論文集】 『全国大会梗概集』(2001年～、年1回発行)
6	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management (JASH) ○正会員 189名 ○学生会員 5名 ○名誉会員 5名 (2022年8月現在)	【会長】 藤井享(北見工業大学) 【本部/事務局】 江戸川大学 社会学部 崎本武志研究室 【支部】 北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部	○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、ハネルディスカッション等) ・2021年度(第29回)大会【オンライン】 ○研究専門部会の開催(適宜) ○研究発表会 ・関東支部研究発表会の開催 ○学会誌の発行 (『HOSPITALITY』『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』) ○テーマ別研究部会による活動(①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨デステネーション&ブライズブランディング、⑩ワーケーション、⑪観光マネジメント) ○国内外でのシンポジウム開催 ○国際観光研修旅行の実施 ○教科書・学術書の出版 ○国際観光に関する学術調査及び研究 ○内外の企業、団体、個人からの委託研究 ○関連学会、協会との連絡及び交流	【学会誌】 『HOSPITALITY』(1993年～2012年度:年1回、2013～2015年度:年2回、2016年度～:年1回) ・2021年度:第32号 論文8本、研究ノート3本 『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』 (2012年～、年1回(2013年は年2回)) ・2021年度:Vol.8 No.1 論文5本、研究ノート1本
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○会員 97名 (正会員92名、学生会員5名) (2022年8月現在)	【会長】 大江靖雄(東京農業大学) 【事務局】 立教大学観光学部 東徹研究室 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年1回) ・2022年度(第38回)大会(2022年1月9日(日))【オンライン】 ・大会テーマ:総合観光学会の回顧と到達点～学会創立20周年に当たって～ ※研究発表のほか、学会創立20周年記念シンポジウムの開催、学会功労者に対する表彰を実施。 ○学会誌『総合観光研究』(第20号)の発行 ○会報(第38・39号)の発行 ○その他(学会公式HPの充実)	【学会誌】 『総合観光研究』(2002年度～、年1回刊行) ・2021年度:第20号(2022年3月) 統一論題シンポジウム(コロナ禍と観光)寄稿論文4本、論文1本、研究ノート1本

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2021年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 117名 ○学生会員 3名 ○院生会員 4名 ○法人会員 4団体 ○名誉会員 6名 (2022年8月現在)	【会長】 細野昌和(北海商科大学) 【本部/事務局】 (一社)岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○学会誌の制作(『観光まちづくり学会誌』) ※以下は新型コロナ禍により延期 ○研究大会の開催(年1回、基調講演、研究発表、会員総会等) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』(2003年～、年1回) 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会ホームページに掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators(JSTHE) ○正会員 188名 ○準会員 12名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 4名 (2022年8月現在)	【会長】 穴戸学(日本大学) 【本部/事務局】 杏林大学 外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等) ・2021年度(第21回)大会【ハイブリッド形式(対面&オンライン形式)】 ・大会テーマ:With/After コロナ時代における観光ホスピタリティ教育のあり方 ○総会・シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～2回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○全国大会発表概要の発行(『全国大会発表要旨集』) ○Newsletterの発行(年3回程度)	【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』(2006年～、年1回) ・2021年度:第15号 論文1本、書評4本、フォーラム(グループ研究助成制度 研究報告)1本 【大会論文集】 『全国大会論文集』(年1回) 『全国大会発表要旨集』(年1回)
10	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 147名 ○学生会員 19名 ○コールド賛助会員 4名 ○個人賛助会員 5名 ○企業・団体会員A 2団体 ○企業・団体会員B 4団体 (2022年8月現在)	【会長】 鈴木恵二(公立はこだて未来大学) 【本部/事務局】 北海道札幌市北区 北27条西7丁目3-7-5 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) ・2021年度(第17回)大会【オンライン】 ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカーション) ○観光情報学研究会の開催(さっぽろ、はこだて、かがの、たいせつかみイ、ちゅうしこく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援等	【学会誌】 『観光と情報』(2005年度～、年1回) ・2021年度:第17巻 特集(コロナ後の観光情報学)4本、学術研究論文4本、産業化論文1本 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』(2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』(2009年度～、年2回)
11	コンテンツツーリズム学会 The Academy of Contents Tourism(ACT) ○正会員 129名 うち学生会員(学部生・大学院生) 21名 (2022年8月現在)	【会長】 増淵敏之(法政大学) 【本部/事務局】 文教大学 国際学部 清水麻帆研究室内 【支部】 なし	○論文発表大会(年1回、特別講演、論文発表、講評等) ・2021年度(第9回)大会【オンライン】 ・特別講演テーマ:『アイドルはなぜ「ご当地ソング」を歌わないのかー虚構空間の存在構造』稲増龍夫氏(法政大学大学院教授) ・論文発表大会 ○学会論文集の発行(『コンテンツツーリズム学会論文集』) ○シンポジウムの開催(年1回)【オンライン】 ・2021年度基調講演:『コンテンツツーリズム～メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム』山村高淑氏(北海道大学観光学高等研究センター教授) ・2021年度パネルディスカッションテーマ:コンテンツツーリズム研究の新展開 ○研究会(不定期開催)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』(2014年度～、年1回) ・2021年度:Vol.9 論文3本、研究ノート3本
12	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies(JSTS) ○名誉会員 1名 ○正会員(一般) 351名 ○正会員(大学院生) 74名 ○正会員(シニア) 4名 ○機関会員 8機関 ○準会員(学生) 0名 (2022年8月現在)	【会長】 藤巻正己(立命館大学) 【本部/事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等) ・2021年度(第10回)大会【オンライン】 ・大会シンポジウムテーマ:ライティング・ツーリズムーCOVID-19以降の観光研究とは ○研究集会の開催 ・2021年度(第9回)研究集会【オンライン】 ・テーマ:観光とエシックスー様々な探究の可能性 ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』(2012年度～、年1回/2013年度～、年2回) ・2021年度:Vol.9 No.2 原著論文3本、萌芽論文1本、特集論文(リベラルアーツとしての観光ツーリストのリテラシーとは何か)3本、書評2本 Vol.10 No.1 原著論文1本、特集論文(COVID-19パンデミック以後の観光研究をもとめて)3本、フォーラム報告2本、書評1本 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(2012年度～、年1回)

付記

観光研究

資料:各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2022年8月現在)
(注)日本学術会議のWEBサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

表 付記-4 科研費「観光学関連」の総配分額の上位研究機関(2021年度)

研究機関	採択件数	研究種目	総配分額(千円)
北海道大学	6	基盤C:2、若手:2、特別:2	14,440
和歌山大学	5	基盤C:5	16,510
立命館アジア太平洋大学	4	基盤B:1、若手:3	25,610
東海大学	3	基盤C:3	9,230
京都大学	2	基盤C:1、若手:1	8,580
高崎経済大学	2	基盤B:1、基盤C:1	18,460
筑波大学	2	基盤B:1、基盤C:1	21,320
東洋大学	2	基盤C:2	7,280
立正大学	2	基盤C:2	6,890

資料:科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成
(注)審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2021年度のものを対象としている

表 付記-3 科研費「観光学関連」の新規採択研究課題(2021年度～)

研究課題名	研究種目	研究機関
1 伊勢参宮ツーリズムの近代史に関する学際的研究	基盤研究(B)	神奈川大学
2 曖昧検索技術を用いたユーザフレンドリーな観光情報提供に関する実証研究	基盤研究(B)	岐阜聖徳学園大学
3 持続的インバウンド観光への「おもてなし」概念の再構築に関する実証的研究	基盤研究(B)	静岡県立大学
4 イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究	基盤研究(B)	高崎経済大学
5 日本における持続可能な観光をもたらすシステムに関する地理学的研究	基盤研究(B)	筑波大学
6 欧州におけるルーラルツーリズムの推進組織と日本への応用可能性に関する研究	基盤研究(B)	帝京大学
7 自然に関する文化的資産の保全・劣化要因の把握と教育・観光資源化にむけた検討	基盤研究(B)	東京大学
8 地域の特色に基づく観光客の行動分析・評価基盤に関する研究	基盤研究(B)	長崎大学
9 観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考	基盤研究(B)	立命館大学
10 Rural Development and Community Resiliency Through Agriculture Heritage Tourism	基盤研究(B)	立命館アジア太平洋大学
11 メガマーケティングによるゲーム/eスポーツの社会的受容促進に関する研究	基盤研究(C)	青山学院大学
12 台湾と日本の比較を通じた風景地保全制度のあり方に関する研究	基盤研究(C)	江戸川大学
13 農作業体験型都市農村交流活動による農作業労働への貢献に関する調査研究	基盤研究(C)	大阪商業大学
14 南丹地域の歴史資料を活用した地域文化の発信と継承に関する研究	基盤研究(C)	大谷大学
15 COVID-19時代における沖縄観光の社会学研究—マリンツーリズムの現状と課題—	基盤研究(C)	沖縄大学
16 クリエイティブツーリズムによる観光の再構築とSDGsの実現に向けた比較研究	基盤研究(C)	金沢星稜大学
17 小規模住民組織を単位とした持続可能な観光地域づくりに関する計画論的研究	基盤研究(C)	金沢大学
18 海面遊漁環境の持続可能性を考慮した費用負担のあり方に関する研究	基盤研究(C)	鹿屋体育大学
19 観光地における「賢沢市場」の研究—市場価値の分析と展望—	基盤研究(C)	九州産業大学
20 観光経験の哲学的分析及びその観光倫理教育への活用手法に関する基礎的研究	基盤研究(C)	京都外国語大学
21 京都の文化観光資源である花街のコロナ後における伝統産業等と相関した復興発展の研究	基盤研究(C)	京都産業大学
22 観光地のサービス品質と感染症セキュリティ品質が観光地ロイヤリティに与える影響	基盤研究(C)	京都大学
23 ワイマール・ナチス期ドイツにおける余暇増大とマストツーリズムの誕生	基盤研究(C)	熊本学園大学
24 帝国と観光—満洲ツーリズムと在満日本人社会との連動に関する歴史的研究	基盤研究(C)	駒澤大学
25 ドローンと3Dによって離島の歴史文化観光資源を活かすインバウンド需要拡大策の研究	基盤研究(C)	佐世保工業高等専門学校
26 コロナ禍における免税店の影響と今後のあり方に関する研究—各種モデル分析—	基盤研究(C)	札幌国際大学
27 古代・中世の古典の舞台に関する地理学的分析と成果を活用した旅のプランの創造・提案	基盤研究(C)	滋賀大学
28 ポストコロナのライブエンターテインメント:中小ミュージックベニューを事例に	基盤研究(C)	四天王寺大学
29 土地利用から考える観光発展の影響評価:エコツーリズムと生態系サービスの関連性研究	基盤研究(C)	総合地球環境学研究所
30 コロナ時代の新たな都市農業:ICTが拓く可能性とその社会インパクト	基盤研究(C)	大正大学
31 小規模宿泊業における資本のあり方に関する研究	基盤研究(C)	高崎経済大学
32 世界自然遺産登録地小笠原の観光ガイド制度の実態把握に基づく資源管理モデルの提案	基盤研究(C)	筑波大学
33 地域観光MaaSモデルの構築とそれを通じた観光地域経済循環シミュレーションの検討	基盤研究(C)	東海大学
34 コロナ禍における観光に対する地域住民の意識と問題解決手法の提案	基盤研究(C)	東海大学
35 ソーシャル・ビジネスとしての観光の日韓比較—地域活性化と利益享受の実相に着目して	基盤研究(C)	東海大学
36 親水性観光業の発展をめざす水面の利用調整制度の再構築に関する研究	基盤研究(C)	東京海洋大学
37 Entrepreneurship through bricolage in times of crisis: A cross-country analysis	基盤研究(C)	東京国際大学
38 膨大なツイートから解き明かす種々の旅のリスクの地域性・時空間特性の分析	基盤研究(C)	東京都市大学
39 持続可能な観光地形成に向けた複雑系モデルとそれをを用いた合意形成ツールの開発	基盤研究(C)	東洋大学
40 アートツーリズムの深化拡充に向けたアート受容の実態と環境創造に関する民族誌的研究	基盤研究(C)	東洋大学
41 ユニバーサルツーリズムの環境整備に向けた統一規格の策定に関する研究	基盤研究(C)	富山国際大学
42 原爆遺跡の複合的構成による学習型観光都市の計画学的研究	基盤研究(C)	長崎総合科学大学
43 農村観光におけるコロナ受難下の意思決定と事業変容の研究	基盤研究(C)	奈良女子大学
44 ポストコロナ時代の観光における対話的交流モデルの国際的体系化	基盤研究(C)	日本女子大学
45 高等学校における観光ビジネス教育導入による観光教育の体系と接続に関する研究	基盤研究(C)	日本大学
46 関係人口を産みだす大学の社会連携事業	基盤研究(C)	阪南大学
47 別荘地からリゾートへ:冷涼地の観光開発とイメージ形成に関する社会学的研究	基盤研究(C)	一橋大学
48 機械学習に基づく中核都市(姫路市)観光振興システムの開発	基盤研究(C)	兵庫県立大学
49 観光地での実現可能な食物アレルギー対応—ユニバーサルツーリズムの現状と課題—	基盤研究(C)	広島女学院大学
50 ガストロノミーツーリズムにおける価値共創に関する研究	基盤研究(C)	平安女学院大学
51 「量から質へ」の観光政策の転換におけるDMOの役割—政策起業家としての機能性	基盤研究(C)	北海道大学
52 東アジアにおける拡張現実時代の平和と観光に関する研究	基盤研究(C)	北海道大学
53 ウェルビーイングの向上に寄与するローカルツーリズムの再構築	基盤研究(C)	山形大学
54 ゲームフィケーションを活用した共同体験観光のサービス高度化に関する実証研究	基盤研究(C)	山梨県立大学
55 独語圏の観光事業に見る「ペーターヴェン・イヴェント」の沿革に関する文化史的研究	基盤研究(C)	横浜国立大学
56 地ビールメーカーの発展が観光地域づくりに及ぼす影響に関する理論的・実証的研究	基盤研究(C)	立正大学
57 統計データを基盤としたデジタル観光市場の構築と応用に関する研究	基盤研究(C)	立正大学
58 観光流動を考慮した観光危機管理計画の再考	基盤研究(C)	琉球大学
59 関係人口と地域住民との価値共創から検証するツーリズム・テロワール価値概念の有効性	基盤研究(C)	和歌山大学
60 空間計量経済学を用いたコロナ期の観光需要に関する研究	基盤研究(C)	和歌山大学
61 ハイブリッド型相互学習による互恵的な海外ボランティア・ツーリズムに関する研究	基盤研究(C)	和歌山大学
62 ポスト・パンデミック時代における持続可能な山岳観光の分析	基盤研究(C)	和歌山大学
63 企業のCSR活動等を契機とした新たな地域観光の創出:「企業の森」事業に着目して	基盤研究(C)	和歌山大学
64 島嶼地域の社会経済特性と観光施設の立地分析	若手研究	秋田大学
65 人口減少社会下の首都圏外縁部における観光地域の衰退とその再生戦略に関する研究	若手研究	宇都宮大学
66 観光からの分散・代用戦略とレジリエンスに関する研究	若手研究	追手門学院大学
67 産業観光活性化方策の提案—ドイツにおける官民連携の事例分析から—	若手研究	大阪産業大学
68 日仏伊の食文化の真正性と農村ツーリズム:ジェントリフィケーションとSDGsの間	若手研究	大阪市立大学
69 Bad jobs or good jobs: Searching for dignity in tourism and hospitality work in Japan	若手研究	関西外国語大学
70 From 'creative destruction' to 'creative development' in the popular living heritage sites in Asia	若手研究	京都大学
71 観光地ブランドと地域産品ブランドの相乗効果創出に関する研究	若手研究	淑徳大学
72 離島の観光危機管理をめぐるコミュニティ分析	若手研究	千葉商科大学
73 デスティネーション・マーケティングにおける宿泊予約サイトデータ利用に関する研究	若手研究	東京工科大学
74 Cultural Landscapeに拠る国立公園と国指定名勝の重複指定地の評価	若手研究	長野大学
75 顧客行動の変化におけるアクティビティ・システムの構築に関する研究	若手研究	福知山公立大学
76 山岳信仰の聖地におけるロッククライミングのゲレンデ整備に関する基礎研究	若手研究	北海道大学
77 先住民族のエンパワーメントに資する観光に関する研究	若手研究	北海道大学
78 How to transform and upgrade hotels in Japan to JP Hotel+ in the post-COVID-19 age?	若手研究	立命館アジア太平洋大学
79 On being community members: exploring psychological mechanisms of community identity construction through Community-Based Tourism	若手研究	立命館アジア太平洋大学
80 観光業を基盤とした温泉産業クラスター形成による地域の国際競争力向上に関する研究	若手研究	立命館アジア太平洋大学
81 「江戸的なもの」の再構築と観光的消費—江戸切子の表象の変遷から	特別研究員奨励費	北海道大学
82 日本の低消費型野生動物ツーリズム:オンラインオフライン混合空間における意味と倫理	特別研究員奨励費	北海道大学

(注)審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2021年度のを対象としている

資料:科学研究費助成事業データベース(公財)日本交通公社作成